

# 2022 年度 登録建築板金基幹技能者講習試験

## (四国ブロック)

- 1 年月日 2022 年 10 月 16 日 (日)
- 2 会場 香川州市内：地域職業訓練センター
- 3 試験時間 60 分
- 4 問題数 30 問 (四肢択一式)
- 5 注意事項
  - (1)係員の指示があるまで、問題を開かないで下さい。
  - (2)解答用紙に、所属組合名・受講番号・氏名を必ず記入して下さい。
  - (3)係員の試験開始の合図で始めて下さい。
  - (4)正解を一つ選択して解答して下さい。二つ以上解答した場合は誤答となります。
  - (5)解答は、必ず解答用紙に記入して下さい。
  - (6)携帯電話は、試験前には必ず電源を切って下さい。
  - (7)質問がある場合は、速やかに挙手して係員の指示に従って下さい。  
但し、試験問題の内容や漢字の読み方等に関する質問には、お答えできません。
  - (8)試験終了時刻前に退席する場合 (試験開始から 30 分経過後より可能) は、挙手して係員の指示に従って下さい。トイレ等の一時的な離席も同様です。

終了の合図があったら筆記用具を置き、係員の指示に従って下さい。



## 2022年度 登録建築板金基幹技能者講習試験問題

2022年10月16日出題

問1 登録基幹技能者に求められる能力について、次の記述のうち誤っているものはどれか

- イ 十分な経験を有し、軽度の作業能力
- ロ 出来上がりの点検、工事の是正ができる
- ハ 技術の進展等に的確に対応した知識
- ニ 現場をまとめ、体系だった効率的な作業を実施するための管理能力

問2 登録基幹技能者の役割について、次の記述のうち誤っているものはどれか

- イ 現場の状況に応じた元請に対する設計方法等の提案、調整
- ロ 現場の作業を効率的に行うための技能者の適切な配置、作業方法、作業手順の構成
- ハ 生産グループ内の技能者に対する施工に係る指示、指導
- ニ 前工程・後工程に配慮した他の職長との連絡・調整

問3 施工管理のサイクルの手順について、次の記述のうち正しいのはどれか

- イ 施工管理を行うためには、計画(P)、実施(D)、検討(C)、処置(A)の順番に四つの段階をサイクル的に繰り返し実行することが基本となる
- ロ 安全確保のみ考慮した計画を立てれば問題ない
- ハ 計画に基づき適切に施工すれば、実際の施工状況を容易に判断できるようなデータを正確に調査・記録しておくことは必要でない
- ニ 計画通りに実施されているか、調査・記録したデータを検証し判断するが、少々  
の差異である場合にはその要因を明確にし、必要に応じて対処する必要はない

問4 工程管理について、次の記述のうち誤っているのはどれか

- イ 工程計画は、施工計画の中でも重要な根幹的計画であり、その適否が工事の良否を決定する
- ロ 工程計画の直接の目的は、工期内の完成である
- ハ 出来形管理は、工事目的物が工程どおり進捗することに重点をおいた管理である
- ニ 工事写真は、工事完成後、目視で確認できない各種材料、作業内容、作業方法や出来形について、施工中に写真撮影を行って記録として残す必要がある

問5 品質管理について、次の記述のうち誤っているのはどれか

- イ 品質管理とは、設計図書及び仕様書に示された品質基準を十分満足するような工事目的物を最も経済的につくるための管理である
- ロ 品質の確保や向上には、発注者をはじめ、建設コンサルタント、設計・監理者、総合工事業者、専門工事業者、材料供給業者の間で品質に関する考え方の共有が必要になる
- ハ 品質に対する顧客の要求事項を満たす程度が高ければ品質は高く、逆であれば品質は低くなる
- ニ 建設物は完成時に高い品質を持てば十分である

問6 建設業法令遵守ガイドラインのうち【不当に低い請負代金（建設業法第19条の3）】に関する記述で適切なものはどれか

- イ 元請負人が自ら提示した積算根拠を明らかにして、十分協議を行うことにより、下請契約を締結した
- ロ 元請負人が契約を締結しない場合には、今後の取引において不利な取り扱いをする可能性がある旨を示唆して、下請負人との従来の取引価格を大幅に下回る額で、下請契約を締結した
- ハ 元請負人が、下請代金の増額に応じることなく、下請負人に対し追加工事を施工させた
- ニ 元請負人が、契約後に、取り決めた代金を一方的に減額した

問7 労働安全衛生法はいつ制定されたか

- イ 昭和22年
- ロ 昭和47年
- ハ 昭和60年
- ニ 平成元年

問8 管理者が部下の意見を聞くポイントとして正しいものはどれか

- イ 気が散らないように、部下の話に注意を集中させる必要はない
- ロ 話し手に対する偏見や他人のうわさ話を思い出すことに気をつけなくてよい
- ハ 注意深く聞いていることを体いっばいに示し、相槌や質問を試みる
- ニ 話は最後まで聞く必要はない

問9 品質を確保するための発注手続きで、次の記述で誤っているものはどれか

- イ 発注者は、競争参加者の技術的能力（工事の経験、施工状況の評価、配置予定技術者の経験等）を審査する
- ロ 発注者は、競争参加者から技術提案を求めるよう努め、中立・公立な審査・評価が行われるよう必要な措置を講じ、これを適切に審査・評価する
- ハ 技術提案の内容に従って公共工事が確実に実施することができないと認めるときは、その提案を不採用とすることができる
- ニ 発注者は、技術提案についての改善を求め、又は改善を提案する機会を与えることができる。又その過程の概要を公表する必要はない

問10 建築構造の中でも木質構造の説明として誤っているものはどれか

- イ 在来軸組構法(在来構法)の中には和風構造と洋風構造がある
- ロ ツーバイフォー工法(枠組壁工法)とは「約2インチ×約4インチ」材を基本構造材とすることが名前の由来である
- ハ 木質プレハブ構法は木材・木質材料の構造材をあらかじめ工場で作製し、現場で組み立てる方式である
- ニ 大断面集成材構造は、大きな断面積を有する集成材で骨組を作る構造である。集成材のため耐火性は劣っている

問11 責任施工保証制度の目的及び内容となる4つの側面について、次の記述のうち誤っているのはどれか

- イ 最終的には、自己責任のかたちで国民の信頼に応えることのできる専門の担当分野が確立されなければならないという意味において、屋根及び外壁を中心とした建築外装系について自立した専門工事業としての「業種的地位」を確立するための運動
- ロ 施主あるいは発注者の信頼につながる公正さや透明性を担保する観点から、客観データに基づく図書体系の策定等を通じての、使用資材及び採用構工法並びに駆使する技能・技術に関する「定型化」あるいは「標準化」を進める運動
- ハ 施工の直接作業能力を有する人材としての<技能者>の養成、施工管理能力を有する人材としての<技術者>の養成など、「人づくり（登録基幹技能者）」を進める運動
- ニ 小規模事業者が圧倒的に多い業界の実態を考慮し、作業の共同から事業の協同及び合同までを視野に入れた「資金援助づくり」を目指す運動

問 12 設計・施工上の役割の説明として誤っているものはどれか

- イ 鋼板製屋根・外壁の設計・施工に関わる関係者として、設計者、総合工事業者、専門工事業者、製品供給業者がある
- ロ 構造耐力上の検討を含めた設計行為に対する責任は設計者に求められる
- ハ 仕様や強度データ等の各種技術情報は積極的に提供してはいけない
- ニ 設計時に想定した構造性能が達成できるよう、各業者間での情報共有が必要である

問 13 設計者、総合工事業者、専門工事業者、製品供給業者の各関係主体どうしに必要な役割として不適切なものはどれか

- イ 協議
- ロ 承諾
- ハ 報告
- ニ 点検

問 14 設計時に検討される性能として、次の記述のうち誤っているものはどれか

- イ 太陽光の紫外線領域を反射し表面温度上昇を有効に制御できること
- ロ 外装面の輻射熱及び内外の気温差による伝熱を有効に遮断できること
- ハ 建築物内外の音源から発生する空気伝播音を有効に遮断できること
- ニ 室内騒音レベルの上昇を許容限度内に留められること

問 15 風荷重の計算に用いられる地表面粗度区分の説明で誤っているものはどれか

- イ I = 海面又は湖面のような、ほとんど障害物のない地域
- ロ II = 田園地帯や草原のような農作物程度の障害物がある地域
- ハ III = 樹木・低層建築物が多数存在する地域、あるいは中層建築物(4～9階)が散在している地域
- ニ IV = 高層建築物(10階以上)が密集する市街地

問 16 施工に当たっての各種図書等の確認で、次の記述で誤っているものはどれか

- イ 現場説明書は、現状の立地条件、敷地や工事範囲等を説明したもので、工事に先立ち必ず内容を確認する必要はない
- ロ 配置図で、敷地内における建築物の位置、敷地面積、方位、BM（ベンチマーク）、高低、道路、敷地境界線等を確認し、資材の搬入・置き場、現場成形等に役立てる
- ハ 資材搬入等を考慮し、現場付近の道路、交通機関、駐車場、方位、地形等を明記した現場案内図を確認する
- ニ 特記仕様書は、外装材の工事において施工条件により適した工法・材料等を用いるため、特殊な箇所の仕様等を明記したものである

問 17 提出書類の確認について、次の記述のうち誤っているものはどれか

- イ 施工要領書
- ロ 施工図
- ハ 材料検査表
- ニ 地質調査表

問 18 折板屋根の軒先の納めに関する内容で、次の記述で誤っているものはどれか

- イ 軒出の寸法は、折板の山高の5倍以下にすることが望ましい
- ロ 軒どい及び竪どいの寸法は、原則として雨量計算の結果によるものとする
- ハ 折板の先端部には、水切れを良くするための尾垂れを設ける必要はない
- ニ 軒の外部露出部には、原則として裏張り材を張らない

問 19 折板屋根の棟の納めに関する内容で、次の記述で誤っているものはどれか

- イ 折板の棟側端部には、止面戸の取り付けその他の防水上有効な措置を施す
- ロ 棟包みとして用いる鋼板は折板と同等の性能を有するものとし、加工長さは折板の働き幅に応じた寸法とする
- ハ 棟包みどうしの重ねの留め付けは細目ねじ又は耐水リベットによるものとし、留め付け部は折板の山部に設けなくてよい
- ニ 折板の熱伸縮等の影響を受ける恐れのある場合には、折板の長さ方向の伸縮を考慮した棟包みを用いる

問 20 吊り折板屋根の納めについて、次の記述のうち誤っているものはどれか

- イ 折板吊り金具は原則として、割り付は考慮しなくても良い
- ロ 内どいは、壁側の胴縁と折板から帯鋼で支持する。胴縁は内どいの重量を指示できる寸法とする
- ハ 軒出寸法は折板の山高の 5 倍程度以下にする
- ニ けらば端部は適切に補強する

問 21 二重折板屋根施工の納まりについて、次の記述のうち誤っているものはどれか

- イ 断熱金具は適切な試験によって許容耐力が確かめられたものとし、下折板の墨出し位置に確実に取り付ける
- ロ 断熱材はグラスウールその他これに類するものとし、下折板の上に隙間なく敷き込む
- ハ 軒先水切は、軒先面戸と外壁に固定する必要はない
- ニ 下折板の棟はグラスウール受けと万が一の漏水に備えた捨て棟としての役割がある

問 22 横ぶき屋根の各部の納めに関する内容で、次の記述で誤っているものはどれか

- イ 軒先は、唐草にふき材を引っ掛け、直接および吊子を介してドリルねじ等で固定する必要はない
- ロ 棟包みは、下地材に留め付ける
- ハ 谷は、谷板に屋根ふき材をつかみ込んで納める
- ニ 壁取合部納めは、止水上有効な措置を施す

問 23 外壁の下地構法として次の記述のうち誤っているものはどれか

- イ 外壁の下地に用いる胴縁は、適切な強度、剛性並びに耐久性を有するものとしなければならない
- ロ 胴縁の取り付けは外壁材に拘わらず 450 mm とし、防耐火性能等が必要な場合にはその仕様に準ずる
- ハ 外壁各部の取り合いには、外壁材の端部や役物等を固定するために適切に胴縁を配置する
- ニ 胴縁の不陸その他の下地の不具合は、外壁の仕上げに影響を与えるので注意しなければならない



問 24 維持保全に関する用語の説明で誤っているものはどれか

- イ 日常点検 = 対象物が日常運用されているときに可能な点検
- ロ 定期点検 = 周期を定めて対象物を休止させたりして行う点検
- ハ 保守 = 消耗部品の取り替えや汚れの除去等、対象物の機能の維持と耐久性確保のために行う作業
- ニ 修繕 = 劣化又は陳腐化した部材・部品等の機能・性能・外観を現状あるいは初期の水準以上の状態にすること

問 25 鋼板の塗装製品の初期塗替え時期の目安について、次の記述のうち正しいものはどれか

- イ 鋼板にポリエステル系塗装は一般的な場所で7～9年
- ロ 鋼板に塩ビ樹脂系塗装は一般的な場所で6～10年
- ハ 鋼板にフッ素樹脂系塗装は厳しい場所では20～22年
- ニ 耐酸被覆鋼板の場合は厳しい場所では20～25年

問 26 維持保全計画で定めるべき事項で、次の記述で誤っているものはどれか

- イ 建築物又はその部分の用途、将来の増改築の予定に関する事項
- ロ 維持保全を行うための組織、維持保全業務の委託、建築士その他専門技術者の関与等に関する事項
- ハ 点検箇所、点検時期、点検者、点検に当たっての判断基準、結果の報告等に関する事項
- ニ 安全衛生教育の実施等に関する事項

問 27 屋根の改修工事で、設計・見積り時の調査項目として、次の記述のうち誤っているものはどれか

- イ 屋根材の種類及び板厚
- ロ 屋根材の劣化状態は調査項目としない
- ハ 心木の有無と間隔
- ニ 軒・棟の役物の納まり寸法

問 28 スレート屋根改修におけるアスベスト対策について、次の記述のうち誤っているものはどれか

- イ 石綿作業主任者の選任と作業者への特別教育を実施する
- ロ レベル 3 対応の防塵マスクや通勤等と同じ作業衣を着用する
- ハ 関係者以外の立ち入りを禁止する
- ニ 廃スレートは専門業者に委託し、産業廃棄物として安定型最終処分場で処理する

問 29 一文字ぶきの納めに関する内容で、次の記述で誤っているものはどれか

- イ 銅板・鋼板ぶきを問わず、軒先の納めには唐草を用いるが、唐草の継手には、爪掛け式とはぜ掛け式がある
- ロ ふき板の加工には 2 通りあり、はぜ部に切込みを入れなかつかみ込みぶきと切込を入れる爪切りぶきがある
- ハ 爪きりぶきは、はぜを切れ込むことになるので、雨仕舞の点ではつかみ込みぶきの方が劣っている
- ニ ふき板には熱による伸縮を吸収するエキスパンションジョイントを桁行 5m～6m ごとに 1 か所設けるようにする

問 30 心木なし瓦棒ぶきの納めに関する内容で、次の記述で誤っているものはどれか

- イ 心木なし瓦棒ぶきの構成部材は、溝板・吊子（通し吊子または部分吊子）・キャップの 3 部材からなる
- ロ 通し吊子の長所の 1 つは、強度的に部分吊子より優れている点である
- ハ けらばをつかみ込んで納める場合は、けらばは風圧力をまともに受ける部位であるので、十分な強度が必要である
- ニ けらばのつかみ込む溝板はなるべく幅を狭くし、受圧面積を小さくする。概ね働き幅の 1/3 以下になるように割り付けるとよい